

毎日の暮らしを、ふりかえってみよう

どうして、エコライフは必要なの？

地球温暖化につながる、資源のムダ使いと家庭からのCO₂排出

地球温暖化の主要な原因とされるCO₂（二酸化炭素）の排出が増えています。

自家用車や冷暖房の使用に伴う、家庭からの排出も増加要因の一つです。

一世帯あたりの年間CO₂排出量は、5,500kg。

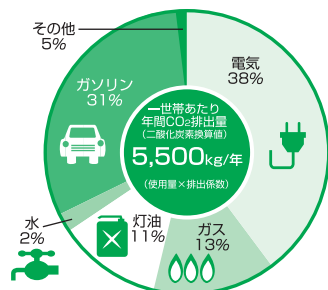
家庭部門全体では、日本の全CO₂排出量の13%を占めています。※自家用車からの排出は運輸部門に含まれます。

「京都議定書」の発効により、日本は2008年から2012年までの期間中に、CO₂など温室効果ガスの排出量を1990年と比べてマイナス6%にする義務を負っています。

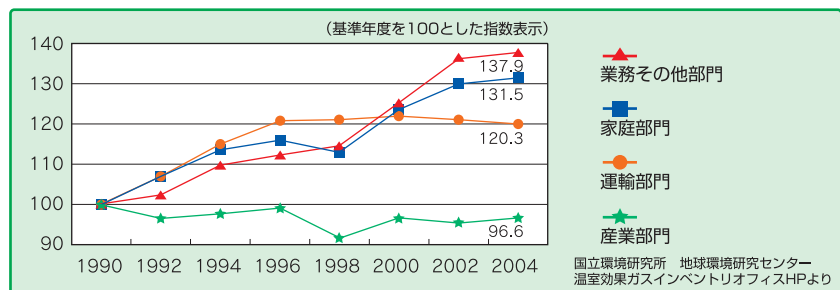
しかし、現在まで排出量は増え続けており、特に、家庭部門、業務その他部門（オフィスなど）、運輸部門（自動車など）のCO₂排出は、産業部門と比べ、1990年以降の排出量の伸びが大きくなっています。

私たちが、毎日の暮らしの中で地球温暖化対策をすすめていくことは、大変重要になっているのです。

家庭におけるCO₂の排出割合



全国におけるCO₂の排出量の推移



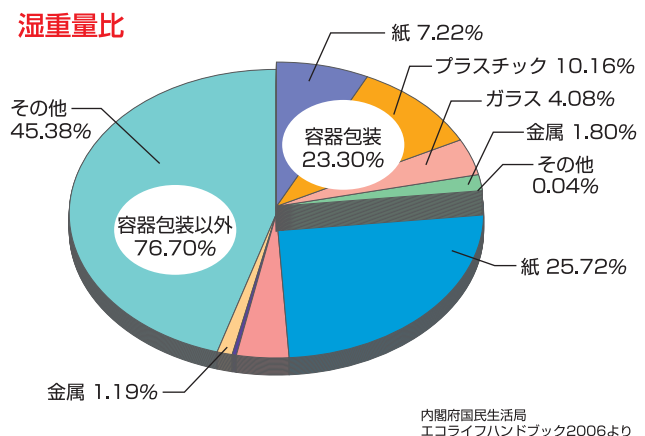
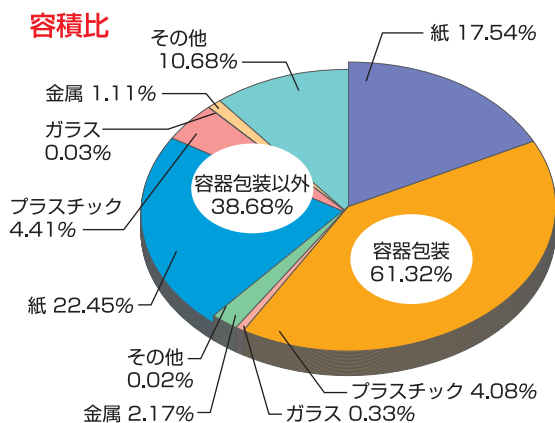
私達のくらしとごみ

1人1日あたりのごみ排出量は、1,086g。年間約400kgものごみを排出していることとなります。

家庭から出たごみは、基本的には「焼却して埋立」か、「そのまま埋立」されます。ごみが増えると、埋め立てる場所がなくなってしまうのです。

全国の埋め立て場所の平均残余年数は13.2年で、6年連続で減少しています。新たな埋立場を作るのに、自然が破壊されますし、処理に莫大なお金がかかります。私達がごみとして使い捨てているたくさんの物についても、生産から焼却されるまでにたくさんのエネルギーを消費し、CO₂を排出しています。ちなみに、全国で、家庭等のごみの処理のために使われる経費年間額は1兆9,343億円。大分県の年間予算（約6,000億円）の3倍以上のお金が、ごみの処理のために使われているのです。

家庭ごみ全体に占める容器包装廃棄物の割合



家庭から出るごみの多くは、レジ袋などの容器包装ごみや生ごみです。これらのごみは、私達のライフスタイルを見直すことで、かなりの量を削減することができます。環境問題は、私達の毎日のくらしの問題でもあります。

やってみよう!今すぐ出来る、「家庭のエコライフ」チェックリスト

四季折々キャンペーンと合わせて取り組んでみましょう。

チェック

エコ花ライフ

- 森林や植物の働きについて家族で話し合う
- お米のとぎ汁を花や庭木の水やりに使う

エコ涼ライフ

- 冷房の温度を1℃高く設定する
- 風呂の残り湯を洗濯や打ち水に使う
- シャワーや手洗いの水を出しっぱなしにしない

エコ食ライフ

- マイバッグを持って買い物に行く
- 省包装の商品や、詰め替え式の商品を選ぶ
- 料理は食べ残さないようにする
- 旬の食材や地場産の食材を使う
- 冷蔵庫の中を整理し、開け閉めは手早くする
- 鍋からコンロの火がはみ出さないよう、火加減に注意する
- 炊飯器の保温を止める
- 残った材料を工夫して調理する
- 箸(マイ箸)を持ち歩き、割り箸を使わないようにする
- 油污れはふき取って洗う
- 生ごみで堆肥を作る

エコ暖ライフ

- 暖房の温度を1℃低く設定する
- エアコンのフィルターはこまめに掃除する
- 家族で団らんし、無駄な暖房を使わないようにする

このほかにも、環境にやさしく暮らすためのアイデアはたくさんあります。様々なアイデアを取り入れてエコライフを楽しみましょう。

また、四季折々キャンペーンのホームページには、このほかにもたくさんの事例やアイデアが掲載されています。こちらをご覧ください。

<http://www.pref.oita.jp/13010/gomi0/shiki/>

四季折々キャンペーン

検索

大分県生活環境部ごみゼロおおいた推進室
〒870-8501 大分市大手町3-1-1
TEL:097-506-3024 FAX:097-533-9500

R100
古紙配合率100%再生紙を
使用しています